

2023年4月16日 午前礼拝
「御霊の実について②」 説教:大木英雄牧師

【メイン聖句】 マタイ 6:9

だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』

【引用聖句】 ガラテヤ 5:22,23

22. しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、
23. 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

【説教要約】

前回「御霊の実の①」で愛、喜び、平安について学びました。

マタイ 22:39

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにた
いせつです。

これ一つ守る事でも容易なことではありません。私はいつも、「御名があがめられますよう
に」と祈っています。

私たちは今西団地に住んでいます。愛ねーさん、裕紀、歩美も西団地に住んでいます。今、
引越しをしていますので、子供達も夕食を食べに来ます。家内が夕食を作ります。洗い物も
家内がします。その日は洗い物を私が洗いました。私は自分でも驚きました。「御名があが
められますように」と祈っていると自然にやれたのです。

(3) 平安

私はいつも平安ですが、人間関係がこじれると平安が無くなります。そんな時でも、「御名
があがめられますように」と祈っていると平安が与えられます。

(4) 寛容 (長く苦しむこと)

マタイ 26:63~67,

63. しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける
神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを
言いなさい。」
64. イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりに。なお、あなたがたに言うておきま
すが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あ
なたがたは見るようになります。」
65. すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒瀆だ。これでもまだ、証

人が必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。

66. どう考えますか。」彼らは答えて、「彼は死刑に当たる。」と言った。

67. そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、

イエス様を侮辱した。イエス様は「あなたは神の子キリストなのか」と尋ねられて、イエス様は「そうです」と答えられただけです。その結果、イエス様は顔につばきをかけられ、こぶしで殴られ、平手で打たれた。

私たちはイエス様のような、苦しみを受けたことはありません。私たちが苦しみを受けた時、イエス様の事を思えば、私たちの苦しみなどたいしたことではありません。イエス様は御霊に満たされていたのです。「御名をあげます。」

(5) やさしさ

思慮深い、礼儀正しい、上品な、思いやりのある、物分かりの良い、親切な行為であって、やさしい心から発しているのです。

しかし今住んでいる私たちの世界は、あまりにも忙しくて、やさしい心で接していると社会から取り残されてしまうのです。私たちは毎日忙しく働いているので訓練を受けたクリスチャンでも、「幼い子供たちの邪魔が入ったりすると、イライラしてしまうのです。」

マルコ 10:13~16

13. さて、イエスにさわっていただくとして、人々が子どもたちを、みもとに連れて来た。ところが、弟子たちは彼らをしかった。

14. イエスはそれをご覧になり、憤って、彼らに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。

15. まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」

16. そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。

イエス様はどんなに忙しい中でも子供たちに対する優しい心を持っておられた。私たちは御霊に満たされなければ優しい心を持つことはできません。

マタイ 18:21~30

21. そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」

22. イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。

23. このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。

24. 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところ連れて来られた。

25. しかし、彼は返済することができなかったので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。
26. それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします。』と言った。
27. しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。
- 28.ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間で、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ。』と言った。
29. 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから。』と言って頼んだ。
30. しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げられた。

1万タラント=17万年分のお給料、
100年分のお給料を赦していただいてもすごいことです。17万年分のお給料は「十字架で私たちが受ける神の裁きを身代わりとして受けてくださったイエス様の命の事」を言っておられるのです。

イエス様のやさしさはご自分の命を犠牲にされたのです。これは御霊に満たされなければ出来るものではありません。御名をあげます。

(6) 善意

「自己とその所有物を惜しみなく提供すること」

使徒 20:35

このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである。』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです。」

人間は生まれつきこの上なく自己中心です。人間は御霊に満たされなければ、「自己とその所有物を惜しみなく提供すること」はできません。

人間は自分自身の事より、他の人のために何かをすることに関心を持つべきである。人間は生まれながらに自己中心的で思いやりのない傾向を持っている。他人のために何かをするということは、人間を自己中心的な考えから引き揚げ、治療しなければなりません。

人間は親切な行為を通して他の人に喜びをもたらす代わりに、御霊の働きを抑圧し、落胆と憂鬱のぬかるみの中へ、ますます深みにはまり込んでしまうのである。

家内は自分の事より他の人のことを優先させます、私は他の人の事より自分のことを優先させます、私は御霊に満たされるように祈らなければなりません。御名があげられますように。

「主の御名をあげる」

創世記 1:26~27

26. そして神は、「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。」と仰せられた。

27. 神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

ヨハネ 4:24

神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

神様は、「霊的な存在」なので、人間も「霊的な存在」として創造されたのです。

創世記 2:15~17

15. 神である主は、人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。

16. 神である主は、人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

17. しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」

神様は人間をエデンの園に置き「神の王国を造ろうとされました」

神の王国の王様 = イエス様

イエス様の権威

マタイ 28:18

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」

ラージャス先生はいつも、「イエス様は天においても地においても、一切の権威を持っている」と言っていましたが、これは日本人がイエス様の権威を認めなくても、神様が神の王国を造られたとき、神様はイエス様に一切の権威を与えられたのです。

私たちはイエス様の権威を信じましょう。日本は仏教王国ですが、仏教の権威よりもイエス様の権威の方が上なのです。神の王国の市民はクリスチャンです。

神様がこんなに素晴らしく神の王国を造ってくださったのにアダムとエバは悪魔の誘惑に負けてしまったのです。アダムとエバは善悪の知識の木からとって食べてしまったのです。

創世記 3:5~6

5. あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

6. そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするとい

うその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

アダムとエバは善悪の知識の実を食べたので、悪魔の家族になってしまったのです。

ローマ 5:12

そういうわけで、ちょうどひとりの人（アダム）によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、…それというのも全人類が罪を犯したからです。

アダムは全人類の代表なのでアダムが罪を犯したので、全人類は悪魔の家族になってしまったのです。

ヨハネ 3:16

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

神様は天と地を創造された神様
その一人子 = イエス様
「お与えになった」という意味
人間は罪びとで会う

マルコ 7:22

姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、

姦淫 = 男女が性的な罪を犯す。

貪欲 = 人間はこれで満足ということがない。

欺き = 「うそ」子供の嘘のつき方を教えるお母さんはいません、しかし子供はお母さんをだますような嘘をつきます。

「そしり」 = 人の陰口を言う。その人の前ではその人の悪口を言う人はいません。しかし、その人のいないところでその人の悪口を言います。

高ぶり = 人間は神様に創造された。神様は人間に必要なものをすべて創造された。太陽、空気、水、食べ物、しかし「人間は神様を信じなくともよい」という、これが最高の罪です。

ヘブル 9:27

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

人間が死ぬことは全ての人が認めています。しかし死後、裁きがある事は、一度死んで蘇った人でなければ誰も言うことはできません。しかし一度死んで蘇ったイエスさまだけが言うことが出来ます。

使徒 9:1~9

1. さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、
2. ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。
3. ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。
4. 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞いた。
5. 彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。
6. 立ち上がって、町にはいりなさい。そうすれば、あなたのしなければならないことが告げられるはずです。」
7. 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれも見えないので、ものも言えずに立っていた。
8. サウロは地面から立ち上がったが、目は開いていても何も見えなかった。そこで人々は彼の手を引いて、ダマスコへ連れて行った。
9. 彼は三日の間、目が見えず、また飲み食いもしなかった。

サウロは、律法を守ることで天国へ行けると固く信じていた人です。しかしクリスチャンは、「キリストが、死人の中から三日目に蘇ったと信じるだけで天国へ行けると信じている人たち」です。そしてクリスチャンの数が爆発的に増えてきたのです。

サウロはそのような間違っただけの教えを信じているクリスチャンを皆殺しにすべきだと考えて、大祭司の所へ行って、「キリストが三日目に死人の中から蘇ったと信じているクリスチャンを皆殺しにしてもよい」という任命書をもって来たのです。

そしてクリスチャンを捕まえていました、ところがダマスコに来た時、天からまばゆい光の照らされたのです。そして死人の中から三日目に蘇ったイエス様から「サウロ、サウロなぜ私を迫害するのか」という声を聞いた。

サウロが「主よ。あなたはどなたですか」と言うとお答えがあった。「わたしはあなたが迫害しているイエスである」私たちにサウロの驚きを理解することはできません。サウロはイエス様が死人の中から蘇ったと信じているクリスチャンを殺していたのです。ところがサウロは死人の中から三日目に蘇ったイエス様に会ったのです。

サウロにイエス様が死人の中から三日目に蘇った事を伝道すれば、その場で捕まえられて殺されるのです。死人の中から三日目に蘇られたイエス様ご自身が伝道されたのです。サウロはその場で目が見えなくなり三日間何も食べなかった。このことからサウロがいかに驚いたかが想像することが出来ます。

ヘブル 9:27

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

これは三日目に死人の中から蘇られたイエス様の言葉です。イエス様が死人の中から三日目に蘇られたことを信じていない人は死後、裁かれるのです。

ローマ 5:8

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

神様は十字架の上で私たち罪びとが受ける神の裁きの身代わりとしてご自分の御子キリストをお与えになられたのです。

神の王国で最高の権威を持ち、私たちの身代わりとして十字架せ死なれたイエス様の御名をあげましょう。